

1987	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
10	•	•	•	•	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

● 毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ……ソナエ アレバ ウレイナシ!!



かわさき
 防災広報紙

NO.
38

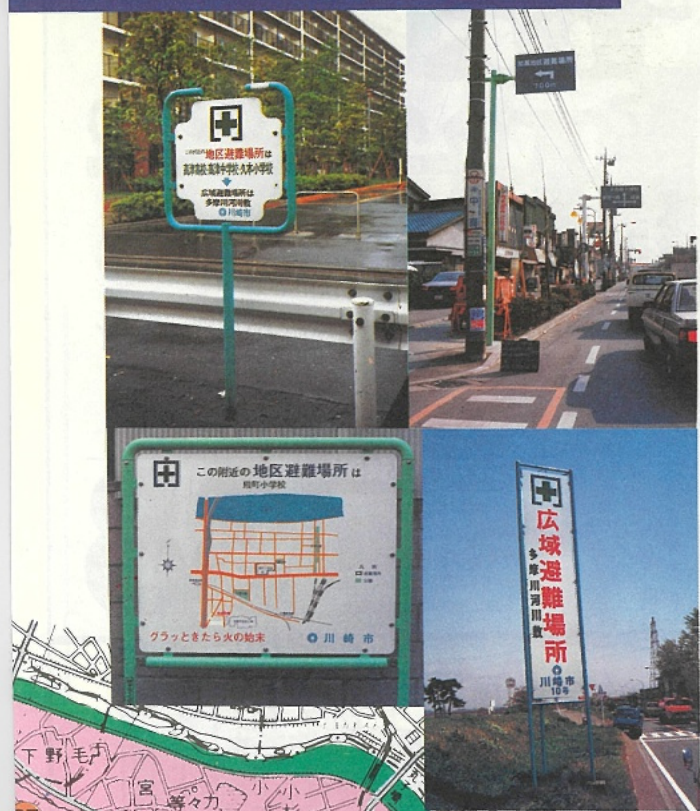
昭和62年9月30日発行
 発行●川崎市
 編集●土木局防災対策室
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL.(044)200-2111内線2841



地震のとき一番怖いのは、心の揺れかもしれない。
 気が動転し、あわてて家を飛び出すのほども危険です。
 まず心の揺れをおさえて、身の安全を確保し、ガスの元栓をしめるなど、
 被害を最小限に食い止めるための行動をおこしましょう。
 そして万一火災が発生したら、
 近所の人と協力して消火にあたらなければいけません。
 ほおっておけば、災害は広がるばかりです。
 街を守るのはチームワーク、逃げるだけが避難ではありません。
 しかし危険はおかすずに、
 危なくなったら集団を組んで安全な場所に移動しましょう。

避難とは、ただ逃げることじゃない。
 時には逃げないことも、避難です。

行と臨時給水栓設置場所

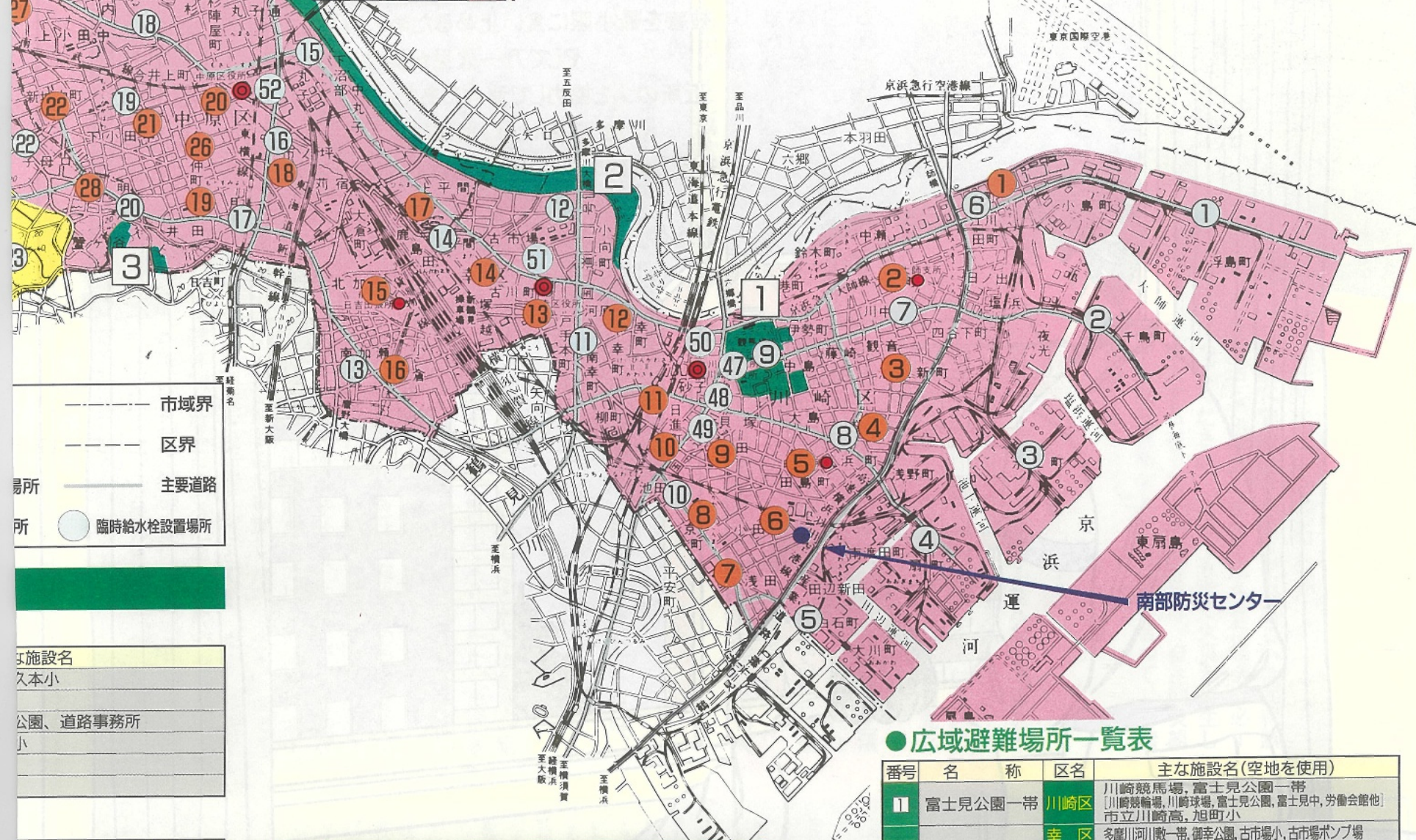


◎台風など風水害のときの避難場所は、地震のときの避難場所とは違い、学校を中心とした公共施設や、社寺、町内会館などに開設します。

◎要避難地域と任意避難地域
市域を地震のあと大震災になるおそれのある地域（要避難地域）と大震災になるおそれの比較的小さい地域（任意避難地域）に分けて避難計画を立てています。
要避難地域には、地区避難場所と広域避難場所があり、市民の皆さんはまず近くの地区避難場所に避難することになります。市では職員を派遣し、情報連絡などを行います。しかし、地区避難場所が火に囲まれ危険になるおそれがあるときは、市職員の誘導で広域避難場所に再避難する必要があります。なお、広域避難場所の付近の人は、直接広域避難場所に避難してください。
任意避難地域は、近くに空地や田畑があり容易に避難できるため、特に避難場所は定めてありませんが、情報の連絡や物資の配布等、救援活動を行う場所として、震災時連絡場所と地区連絡場所を指定してあります。

◎川崎市の震災時避難計画

川崎市では、昭和52年に地震の時の避難場所を設定して以来、市民の皆さんの安全を守るために避難場所の整備や広報につとめてきました。しかし、市街化や人口の増加により、社会情勢は変化し、避難計画の見直しを、昭和60年度から行ってきました。
その結果をとりまとめ、本年7月28日火に開催された川崎市防災会議で、地域防災計画の避難計画の一部修正により、避難場所を一部変更しました。
主な変更点は、要・任意避難地域の境界を変更することにより、中原区、高津区、多摩区で新たに広域避難場所・地区避難場所を設定したこととです。これにより、市街化や人口の増加により危険性の高くなった地域に避難場所が設けられたこととなります。



●広域避難場所一覧表

番号	名称	区名	主な施設名(空地を使用)
1	富士見公園一帯	川崎区	川崎競馬場、富士見公園一帯、川崎競輪場、川崎球場、富士見公園、富士見中、労働会館他、市立川崎高、旭町小
2	多摩川河川敷一帯	幸区	多摩川河川敷一帯、御幸公園、古市場小、古市場ポンプ場
		中原区	多摩川河川敷一帯、等々力緑地周辺、等々力緑地、等々力環境センター、西丸子小、中原小、宮内保育園、宮内中、公文書館、教育互助会館
		高津区	多摩川河川敷一帯
3	井田山一帯	多摩区	多摩川河川敷一帯、稲田中、稲田公園
		中原区	心身障害センター、長寿荘、県立中原看護学校、井田病院、新日鉄グランド
4	市民プラザ一帯	高津区	市民プラザ、橋清掃場、新作小
5	緑ヶ丘公園一帯	高津区	緑ヶ丘公園、下作延小、県立東高根森林公園
6	生田緑地一帯	多摩区	生田緑地一帯
7	西菅公園一帯	多摩区	西菅公園、菅馬場公園、県立菅高、南菅中、南菅小

●地区連絡場所

区名	番号	名称	施設名(空地を使用)	区名	番号	名称	施設名(空地を使用)
高津区	1	久末	久末小	宮前区	1	細山	西生田小
	2	野川	野川中		2	千代ヶ丘	千代ヶ丘小
	3	有馬	県立川崎北高		3	百合丘	南百合丘小
	4	鷺沼	鷺沼小		4	東百合丘	長沢小
宮前区	5	馬絹	区宮前連絡所		5	王禅寺	王禅寺小
	6	宮前平	宮前平中		6	虹ヶ丘	虹ヶ丘小
	7	平	向丘小、区向丘連絡所		7	柿生	区柿生連絡所
多摩区	8	犬蔵	消防総合訓練所		8	片平	片平小
	9	菅生	菅生中		9	黒川	栗木台小
	10	生田	生田小、区生田出張所		10	岡上	岡上小
	11	南生田	南生田小				

宮前区

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地	目標
26	野川	野川3007	東急野川団地上林弘孝宅前
27	有馬	有馬6丁目6の1	市営・東急バス、中有馬バス停
28	宮崎	宮崎693	前田泰正宅前
29	土橋	土橋3丁目1の1	水道局鷺沼配水所南側
30	菅生	菅生6丁目33の15	大伸荘前
31	菅生	菅生8055	潮見台浄水場東側手塚宅前
32	宮前区役所	宮前平2-20-5	宮前区役所構内

麻生区

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地	目標
39	千代ヶ丘	千代ヶ丘6丁目14	小田急バス、千代ヶ丘バス停
40	万福寺	万福寺1丁目11	多摩オートセンター
41	王禅寺	王禅寺2724	住友銀行百合ヶ丘支店
42	王禅寺	王禅寺106	東柿生郵便局
43	上麻生	上麻生1282	麻生消防署柿生出張所裏麻生川、東側
44	白鳥	白鳥2丁目3の8	龍月ハイツ
45	黒川	黒川331	小田急バス、黒川分校下バス停
46	岡上	岡上669	温室多摩植物園

施設名	目標
久本小	第3京浜道路下、渡辺紙器製作所前
公園、道路事務所	千年交差点宮田風呂店前
小	水道局久未配水塔
	日本光学高津物流センター
	橋清掃場西側

施設名	目標
	スーパー永井、久地店
	産業医学総合研究所南側
	紀伊国屋
	多摩警察署菅派出所
	ネオコーポ稲田堤
	長沢浄水場北側
	高石歩道橋

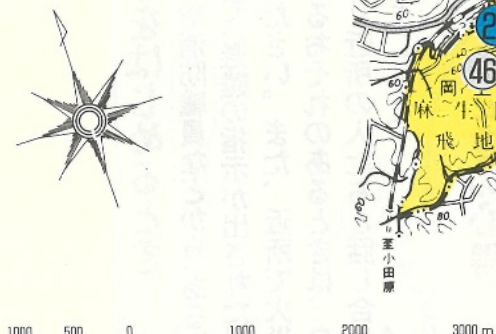
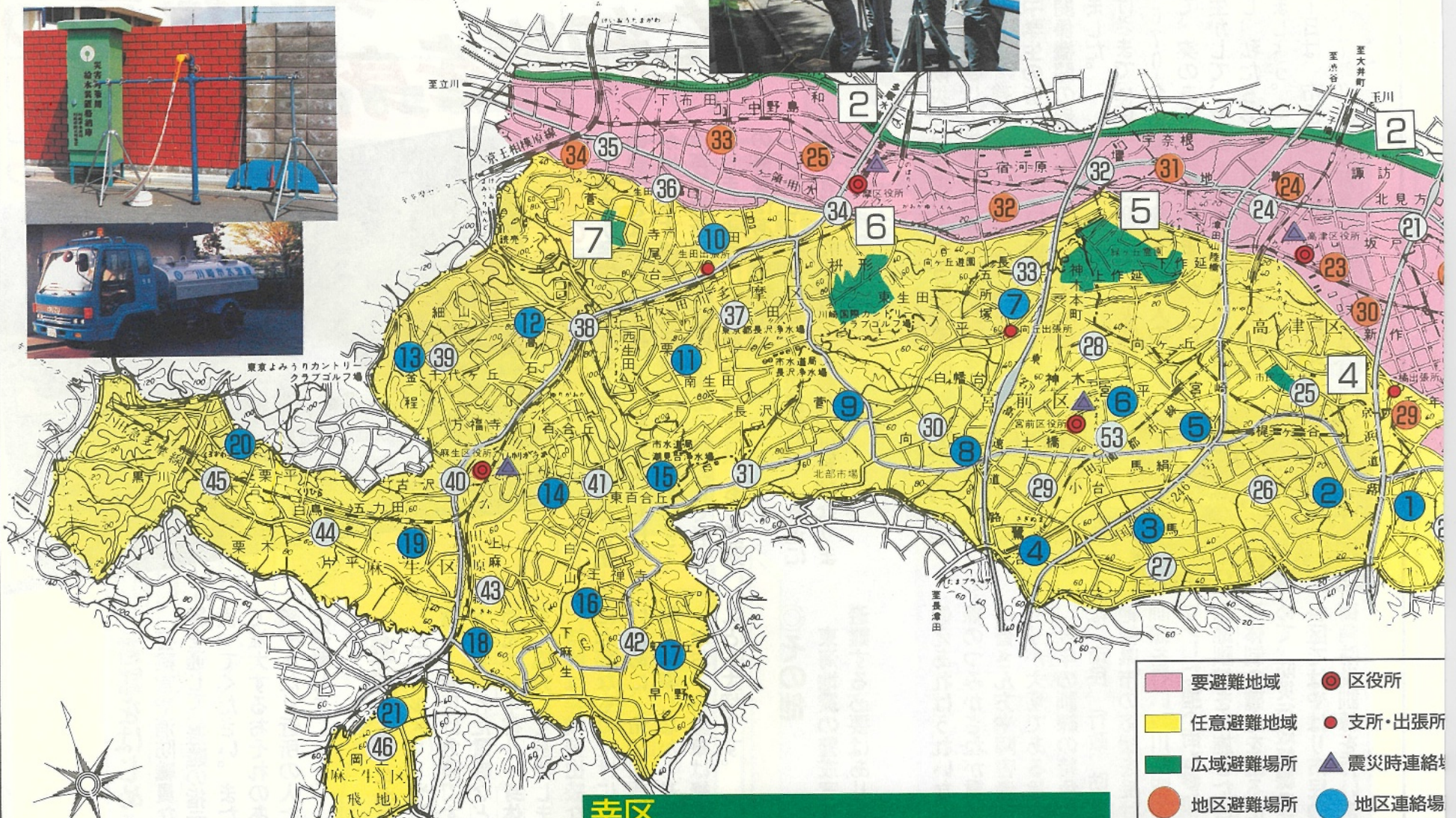
川崎市の震災時避難場所



◎地震が起きたら水はどうなるか。
地震が発生し、電気・ガス・水道・電話などのライフラインが切断され、日常生活に大きな支障がでた場合、各事業者はそれぞれ全力をあげて復旧に取り組みますが、川崎市水道局では、臨時給水栓や給水タンク車により市民の皆さんに水を供給するために計画をたてています。

◎水道の地震対策
本市の水道施設は、地震災害に対して十分耐えられるように、耐震性の高い工法で作られています。このため、例えば大正12年の関東大地震程度の地震では、一部に被害が発生しても、主な配水管は給水に支障がないと考えられます。

◎臨時給水栓
もし各家庭の水道が使用できなくなるとしても、震災をまぬがれた主な配水管により半径1km以内に1箇所を目途として、市内53箇所に臨時給水栓を取り付けて、市民の皆さんに飲料水を供給します。また、給水タンク車などによりあわせて、飲料水を供給します。



幸区

●地区避難場所

番号	名称	主な施設名
12	南河原	南河原小、南河原公園、さいわい緑道、河原町小、幸町小
13	戸手	戸手小、市立商業高
14	下平間	下平間小、塚越中
15	加瀬	夢見ヶ崎公園、区日吉出張所、日吉小、夢見ヶ崎小
16	南加瀬	南加瀬中、小倉小

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地	目標
11	都町	都町39の1	幸病院西側
12	東古市場	東古市場1	御幸球場南側
13	南加瀬	南加瀬4丁目26の1	富士見堂前
14	下平間	下平間1の2	市住宅供給公社鹿島グリーンハイム前
51	幸区役所	戸手本町1の11の1	幸区役所構内

中原区

●地区避難場所

番号	名称	主な施設名
17	上平間	県立川崎工業高、平間小
18	住吉	住吉中、中原平和公園、県立住吉高、東住吉小
19	井田	井田小、住吉西公園
20	小杉	中原区役所・保健所
21	小田中	西中原中、下小田中北島公園
22	新城	県立新城高、新城小
23	木月	法政大学総合グラウンド
24	上小田中	大谷戸小

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地	目標
15	上丸子山王町	上丸子山王町2丁目1369	山王湯南側
16	木月住吉町	木月住吉町2035	東住吉小学校前
17	木月	木月4丁目1256	木月陸橋熊ヶ谷タイル前
18	宮内	宮内595	等々力公園野球場入口
19	下小田中	下小田中1345	NHK中原寮南側
20	井田	井田850	交通局井田営業所前
52	中原区役所	小杉町3の245	中原区役所

高津区

●地区避難場所

番号	名称	主な施設名
23	溝口	市立高津高、高津中、高津小
24	高津	高津小
25	子母口	東橋中、子母口小、橋区橋出張所、橋中、橋小
26	橋	区橋出張所、橋中、橋小
27	末長	末長小
28	久地	久地小

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地
21	北見方	北見方139
22	千年	千年574
23	久未	久未637
24	溝口	溝口771
25	新作	新作1丁目24の2

多摩区

●地区避難場所

番号	名称	主な施設名
29	登戸	登戸小
30	宿河原	稲田小
31	中野島	中野島中
32	菅	菅小

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地
33	堰	堰6
34	長尾	長尾6丁目21
35	枳形	枳形3丁目4の1
36	菅	菅2丁目5の4
37	菅	菅馬場2丁目17の1
38	三田	三田4丁目6の15
39	西生田	西生田4丁目15の5

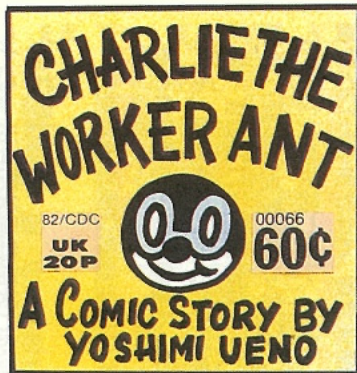
川崎区

●地区避難場所

番号	名称	主な施設名
1	殿町	殿町小、田町公園、殿町第一公園
2	大師	大師公園、大師支所・保健所、平間寺境内
3	池上	東桜本小、桜本中、中留公園
4	桜本	桜本小、桜川公園、大島ポンプ場
5	田島	渡田小、東渡田第三公園
6	東小田	東小田小、東小田公園、南部防災センター周辺、東小田保育園
7	小田	田島中、小田公園、京町中
8	京町	県立川崎高、渡田山王第二公園
9	渡田	渡田中、渡田新町公園
10	日進町	川崎小、日進町公園、県立川崎合同庁舎
11	川崎駅前	川崎駅東口広場

●臨時給水栓設置場所

番号	給水場所	所在地	目標
1	浮島町	浮島町7の1	東燃石油化学株前
2	千鳥町	千鳥町2の1	昭和電工株前
3	水江町	水江町3の3	東洋酸素株前
4	扇町	扇町2の5	昭和石油株前
5	白石町	白石町5	旭工業株前
6	殿町	殿町1丁目17の15	殿町小学校前
7	観音	観音2丁目23の5	宮沢モータース前
8	浜町	浜町1丁目10の8	共同石油川崎オートガソリンサービスステーション前
9	富士見	富士見1丁目1の4	市体育館前
10	小田	小田1丁目9の17	小田1丁目中央公園前
47	共同溝	東田町8の14	川崎電話局前(国道15号)
48	共同溝	東田町11の27	新川橋病院前(国道15号)
49	共同溝	南町17	川崎警察署前(国道15号)
50	川崎区役所	東田町5の4	市役所分庁舎前



忘れた頃に役立つ 生きた知識を身につけよう。



◎地震のときの避難

大地震が発生したとき、まず火の始末や身の安全をはからなければなりません。もし火が出たらすばやく初期消火にとめましょう。大声で近所の人の助けを求め、協力して消火をしましょう。火が消えた場合は、もう避難の必要はありません。

しかし、不幸にも火災が拡大して、身近に危険が迫ったときは、避難しなければなりません。

◎避難をはじめるとき

警察官や消防職員などから、あるいは同報無線を通じて、避難の指示が出された場合は必ず従ってください。また、近所で火災が発生して拡大するおそれのあるときは、自主防災組織となり近所の人たちと話し合っ、一緒に避難しましょう。

◎避難するときの心得

必ずヘルメットや防災ずきんなどで頭を保護し、素足は危険ですから必ず靴をはき、落下物や切れた電線などに注意してください。幼児やお年寄り、身体の不自由な方を優先して、協力して避難しましょう。

◎その他

持物は非常持出袋などに入れた当座の生活に必要なものだけにし、デマにまどわされなために、市の同報無線やラジオで正しい情報を収集しながら避難しましょう。

昭和62年度 川崎市総合 防災訓練実施



9月1日の防災の日を中心とする防災週間中に、全市をあげて地震に対する防災訓練を実施しました。残暑厳しい中、ご参加いただいた小中学生の皆さん、市民の皆さん、そして防災関係機関の皆さん、どうもありがとうございました。

おかげさまで、住民12,300人、防災関係機関1,670人、市職員16,500人の参加を得て、実のある訓練になりました。この経験を生かして、家庭や職場での防災対策を充実し、私たちのまち川崎を災害に強いまちにしましょう。

9月1日は、市役所に非常参集した市職員に対して、7時50分に本部長（市長）から、

備えあればうれいなしのことわざどおり、訓練のつまかさねが重要であり、また、高齢者の皆さん方や障害者の皆さん方に対する思いやりが大切である旨の訓示がありました。

今年の訓練の特色は、麻生区の中央会場では、市民、行政、防災関係機関が一体となり、他都府市の応援を受けた、広域的、実践的な訓練を行い、川崎駅周辺では、昨秋にオープンした地下街も参加し、地震発生も含めて市街地訓練を実施したことです。また、情報伝達体制の確立を図るため、市民の皆さんも含めて、防災行政無線を活用した情報伝達訓練、各区ではやはり市民の皆さんの参加を得て、街角防災訓練を行いました。

わが家の地震対策 1

「地震の実例や被害の状況などを話し合う」地震が起きたとき、家の中はどうなるか、火の元は安全か、家族一人ひとりの行動はどうするか、—そんなことを話し合っています。わが家の地震対策の第一歩は、地震の状況を考え、その時の問題点をはっきりさせることから始まります。

体験談 38

「関東大震災体験記録集」から 関東大震災体験記録会提供

火の地獄から脱出して

名和 喜代さん

当時、私は父母と兄二人の三人兄妹、工場の従業員二十数人、本所区外手町四四番地に住んでいた。（現在、墨田区本所）私は、府立第一高女二年生で始業式から帰宅後、浴衣に着がえてアルバムをみていた。突然ゴーツとゆう音に、何だろうと思っ、顔をあげた瞬間、ドンと突き上り、ガタンと落ち、大揺れにゆれて、歩こうにも歩けない畳の上に這い廻りながら前をみると、目の前に隣の家の屋根瓦が現れた。びっくり仰天、前へ出ようと思っが思うように動けない。突然工場の方から私の名を叫びながら、父がよろけながら私の手を握った「逃げるのだ、早く」と手を引っぱり、やっとならへ出て驚いた。つぶれた家々の屋根瓦の山、もうくるとした土煙りの中を、父と私はすぐ前の外手公園から石原町あたりまで走ってきた時、巡査が被服廠跡へ逃げろと誘導していたので、何のためらいもなく、皆さきを争い、広場めがけてかけ出した。もう中は一杯で荷物を引いた馬、大八車に満載した貨、家財道具、そのそばでもたれるようにしている怪我人など不安とあせりで危険とゆうことなど全く気がつかなかった。

被服廠跡は火に囲まれ、周りは黒煙の中を炎があがっている。私は、父の手をぎゅっと握りしめながら「広いけれど大丈夫かしら」などと話しながら少しも落ちつきがたいと私も生きていたのだ。（以下略）

「お母さん達、大丈夫かしら」「大丈夫だよ、大勢いるから皆と一緒に来ているよ」私達もこのま、火は消えるものだと信じていた。と突然ゴーツとゆう音と一緒に、ものすごい風が起り、アツとゆう間に物は飛び散り、火が私達の中に舞い込んで来た。「もう駄目だ」とゆう父の声を最後に、二人は離ればなれになり「お父さん、お父さん」と私はころげ廻りながら叫び続け、父の手を求めたが、父の声はなかった。ころんでは起き、起きはころび、ぬるくしたものの、上をふみながら、勿論後で思えば折重なつた死体の上だった走り続けた。ふと思議なところに出た。左は真暗、右は真赤、とっさに私は真暗な方へ逃げ出した。安田邸の池だったのだ。私は夢中で池の中に飛び込んだが、火の粉が顔にふりかぶり、その度に顔を水の中に入れて防いだ。「駄目だ駄目だ、もつと頭を洗めて」と人の声、あ、人がいた、生きている人が、私はその男の人に支えられて初めて涙が溢れた。池の中には、かなりの人が生きていた。あ、私も生きていたのだ。（以下略）

※関東大震災 大正十二年九月一日午後五時五十分発生、マグニチュード7.9、地震発生が原因で、被害を増大した。死者九万九千三百八十八人、行方不明四万三千四百七十六人、家屋全壊二万二千六百戸、焼失四万七千二百八十八戸。